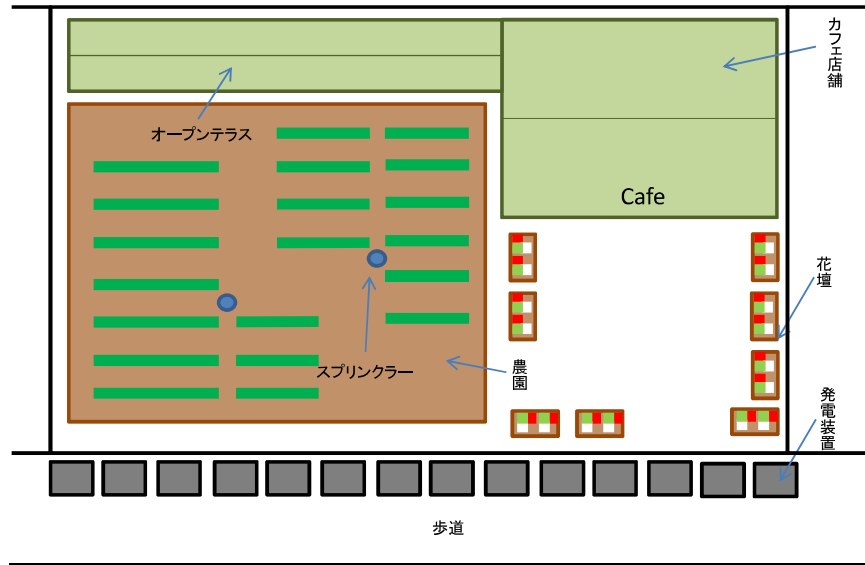


まちなか農園カフェ

都心では、建物の密集化・高層化、土地利用の変化(緑地や水面の減少)によって、ヒートアイランド現象が問題となっている。また、都心に人が集中している反面、近年ではスローライフを求めて田舎暮らしや農業を行う人が増えている。しかしながら、そのような生活に憧れを持ちながらも、今の生活を変えて農業を始めることは勇気のいることであり、居住にこの足を踏み入るもいるだろう。そこで、私は都心で問題となっているヒートアイランド現象を緩和しながら、都心でありながらも癒しを与えるような空間を、多くの都心で暮らす人と協力して作りたいと考え、「まちなか農園カフェ」を提案する。



- 都心に農園を作ることで、緑地が増え、ヒートアイランド現象の緩和に繋がる。
- 都心に居ながらも自然に触れられることや、農園を見ながら食事ができるなど、都心での癒し空間となる。
- 農園にカフェを併設し、そのカフェでは農園で収穫した野菜を使った料理が食べられる。
- 農園の管理はカフェの方が行い、定期的に農園のお手伝いを募集し、気軽に農業体験ができる。

「まちなか農園カフェ」による効果

①緑地が増える

コンパクトシティが推進されている中で街中に車が入り入れることは望ましくないという考えから、今後都心においてコインパーキングなどの駐車場が不要となる可能性が考えられる。そのため、この駐車場を農園カフェとして利用したい。一般的に駐車場の多くは、アスファルト舗装がされており、それを農園にすることによってアスファルトが減少し、緑地が増加する。都心に緑地が増えることで、ヒートアイランド現象の緩和に繋がる。また、農園を手伝ってくれる人は都心に居ながら自然に触れることもできるし、農園を手伝ってくれる人だけでなく、カフェのお客さんもオープンテラスで農園を見ながら、緑に囲まれながら食事や休憩ができるため、癒しの空間として人々の心を豊かにしてくれるのではないだろうか。

②気軽に農業体験ができる

都心にあるため、出勤前の朝活としてや、帰宅前の軽い運動感覚で参加できる。また、都心で育つ子供たちも放課後の遊びの1つとして、農園で作業をすることもでき、都心ではなかなかできない自然に触れることもできる。このように、1つの畑を多くの人のお手伝いによって作り上げていくため、随時面倒を見なくてはならないことはなく、やりたいときにできる農業である。そして、様々な人が参加できるので、そこで繋がりができ、新たなコミュニティが生まれることも考えられる。管理側としては、定期的に農園のお手伝いをしてもらえると、人件費が削減できる利点もある。

私の考えとしては、気軽に参加でき、多くの人が携わる農園を作りたいため、個人で借りるようなスペースではなく、大きいスペースをみんなで協力して作り上げていきたいと考えている。

癒しの空間として、「まちなか農園カフェ」があることで、心が安らいだり、新たな人と人との交流が生まれ、子供たちも手伝いをしてあげれば食育にも繋がったりと、様々な効果が考えられる。

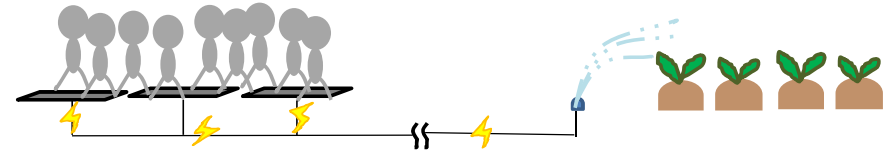
「まちなか農園カフェ」推進のための工夫

①農業体験でお得に！

農園のお手伝いをしてくれた人には、1回につきポイントが1ポイント付き、5ポイント貯まるとドリンクが1杯無料になったり、10ポイント貯めるとランチが1回無料になったりするといった、お得な特典を設ける。これにより、手伝いに来てくれる人も増えるであろうし、カフェ側は、お手伝いに来てくれた人が毎回カフェでご飯を食べたり、ドリンクを頼んだりしてくれれば、ある程度の収入も確保できるのではないかと考える。

②発電装置での水やり

人が踏んで発電のできる装置を歩道に設置し、その電力を使って、スプリンクラーによる水やりを行う。都心ならではの事として、通行量が多いことに着目し、ただ歩いているだけでも発電ができればいいなと考えた。そして、その電力を利用し、スプリンクラーで農園の水やりを行えば、直接農園に関わりはなくても、いつも通りに歩いているだけで都心の緑化に貢献できる。都心の緑化は、一部の人の力で行われていることが一般的であり、大抵の人は無関係であるが、この発電装置による水やりは、歩行者みんなの力で行われるため、多くの人がこの農園に関わることができる。さらに、農園の管理を行う人も毎日の水やりの手間が省け、負担軽減に繋がると思う。

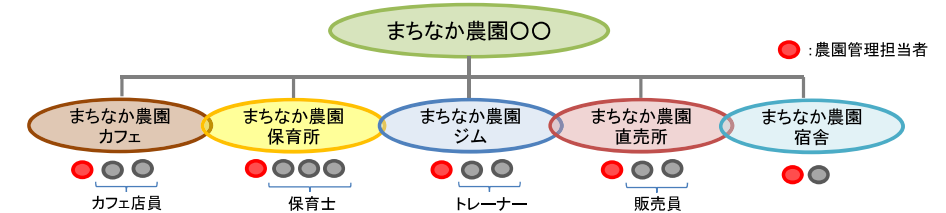


「まちなか農園カフェ」の展望

今回は、都心に着目し、ヒートアイランド現象を緩和させる目的から「農園カフェ」を提案した。緑地を増やすことに、都心で暮らしながらも自然に触れることのできる農業をくっつけ、さらに「カフェ」にすることで身近で立ち寄りやすくなり、自然を見ながら食事ができることで、より癒される空間になると考えた。

今後の展望としては、「都心」×「農園」×「カフェ」だけでなく、「都心」×「農園」×「〇〇」と様々なものに変化して取り入れることも可能なのではないかと考える。そこで、「まちなか農園カフェ」の展望として、都心の緑化のために「まちなか農園カフェ」を転々と作るよりも、「カフェ」の部分を変化させた「まちなか農園〇〇」というものを所々に作りたいと思う。

全体像としては、「まちなか農園〇〇」全体を管理する団体を作り、そこから派生して「まちなか農園カフェ」や「まちなか農園保育所」、「まちなか農園ジム」などを作り、それぞれに農園管理担当者を配置し、運営を行っていく。各農園で育てた野菜は、カフェで提供したり、保育所でのご飯にしたり、別の場所で売ったりと、横の繋がりを持って協力して運営を行ってきたいと思う。



「都心」×「農園」×「〇〇」の例としては、「都心」×「農園」×「保育所」を考えた。近年では、待機児童の問題が挙げられている中で、この「まちなか農園保育所」を作ることによって、待機児童も減少し、また預ける親にとっても会社の近くに保育所があれば、便利になると考える。また、減少しつつある自然に触れる機会も増え、農業を通して食のありがたみも学ぶことができると思う。

次の例としては、「都心」×「農園」×「運動」を挙げる。発電装置での水やりにも焦点を当てたものになるが、軽く運動をしようと思った際に、スポーツジムに通うのもいいが、この「まちなか農園ジム」に来てもらい、エアロバイクやルームランナーを使って運動を行いながら、発電を行ってほしいと思う。そこにも、農園を作りたいたいのだが、それに加えて電力が不足している他の「まちなか農園〇〇」に供給ができればいいと思う。

この他にも、色々な「まちなか農園〇〇」は考えられることから、今回の提案は多くの可能性を秘めていると考える。

「まちなか農園カフェ」を筆頭に、「まちなか農園〇〇」を作ることによって、今回問題として挙げたヒートアイランド現象を緩和するだけでなく、様々な波及効果から、人々がより豊かな生活を送れるようなまちを作りたい。